

## 「仕事と人生」のプロフェッショナル

下條佑一

ySymphony

天然資源が相対的に殆んどない日本が世界トップクラスの繁栄を達成したのは何故だろうか。それは日本の国民が「よく」働いたからではないだろうか。逆に言うと、このことが無ければこの国の繁栄は維持できない。「よく」働くとは、単に勤勉に多くの時間を働くことではない。何の仕事をするにせよ「プロフェッショナル」に仕事をするということである。

現役時代に、プロフェッショナルな仕事をしたいと思っている人は多いのではないだろうか。然るに、その基本となる「プロフェッショナル」のイメージを明確に持っている人は意外に少ないように思われる。その定義は人それぞれで異なっていて当然であるが、最大公約数的にまとめると、プロフェッショナルとは、①「仕事の結果が素晴らしい」、②「直接・間接に世の中・他人(ひと)の役に立っている」の2条件が挙げられる。更に、いわゆる第一線の現役を退いた後でも、これらの条件①②を満たしつつ元気で仕事を続けるために「自分の好きな・楽しめること」をするということをプロフェッショナルの第③の条件として挙げたい。

次に、どうしたらそのようなプロフェッショナルな仕事ができるようになるかが課題になる。いわゆるプロのスポーツ選手の場合は理解しやすい。プロのスポーツ選手は、もてる身体能力を充分成果に結び付ける為に必要な技(わざ)を知って、それをひたすら真剣に稽古している。然るに、そうでない仕事の場合、例えば企業で働く時の「頭脳仕事」の場合は、自分の専門領域の知識は必要に迫られて勉強するが、いつも良い結果(プロフェッショナルの条件①)を出す為に稽古をする技(わざ)は何であるかは必ずしも体系的には明確ではないのではないか。

プロフェッショナルは仕事の目標をもっている。その目標達成の為に施策・技(わざ)は体系的に構築され、それらを身に着けて始めて効果的・効率的に目標を達成することが出来る。(詳細は放送大学・知の市場共催の科目UT812「プロフェッショナル論」で)。また視界を拡げると、「家庭の構築」に関しても同じプロフェッショナル論考が当てはまる。家庭に憂いがある時は外での仕事にその弊害が直接・間接に及ぶことも多い。特に子供の育成は両親の重要課題の一つである。子供が20歳になって世の中に旅立ちプロフェッショナルとして世の中を支える一員になるための子育ては、両親にとって「20年後を今日働く」という意味でもプロフェッショナルお父さん・お母さんでありたい。

100年時代が視界に入ってきた人生を豊かにするために、仕事と家庭の構築、延いては「人生トータルのプロフェッショナル」を真正面から考え、それに取り組むことをしたいものである。